

折に触れ 四字熟語

NO.9 『瞞天過海』 まんてん かかい

< 意味 > 天子をあざむいて海を渡る。

< 出典 > 「兵法三十六計」 <第一計>

『瞞天過海』

解『備周則意怠、常見則不疑。陰在陽之内、不在陽之対。太陽、太陰。』

読み下し： 天をわたいて海を過る。

通 釈： 昔、唐の太宗が高麗へ遠征したとき、海を怖がって乗船を拒みました。そこで、張士貴という者が一計を案じ、巨大な船に土を盛り家まで作ってしまいました。皇帝が安心している間に巨大な船は海を渡り、高麗に到着したそうです。偽装の手段を用いて相手をさそい、それにつけこんで勝利を収める策略である。

読み下し： (解) 備え周あまねければ則ち意おこた怠り、常に見れば則ち疑わず。陰は陽の内に在り、陽のつひ対に在らず太陽は太陰なり。

通 釈： 周到な準備に安心していると、逆に怠慢の気持ちが生じ、何度も同じものを見ていると疑わなくなる。陰は陽の中に内在しているのであり、陽の対極に存在するのではない。大いなる陽の中に、実は大いなる陰が潜んでいるのである。

一 言： 「China 2049」シリーズその2

「兵法三十六計」は「孫子」と並ぶ中国の兵法書ですが、いつの時代に、だれによって書かれたのかは明らかでないとされています。中国では「孫子」よりも民間において流通し、日常生活でも幅広く流用されているようです。

「China 2049」の序章に引用されている四字熟語です。「ありふれた風景に隠れ、敵の油断を誘う」という意味だ、と著者も補足しています。

参照文献： 湯浅邦弘著「孫子・三十六計」 守屋洋著「兵法三十六計」 「ウィキペディア」